

第4回甲賀市選挙事務不適正処理再発防止委員会

【議事録】

○小島委員長 ご説明ご苦労さまでした。今、一通り見ていただきまして、また資料1、2のアンケートの集計結果そういったもの、それから改善点、検証そういった点で事務局の方からご説明がありましたけれど、皆様方からご意見、また事務局の方で補足する点があればお話していただきたいなと思います。私もこの開票、最初から最後までおりまして、非常に、冒頭の挨拶でも申し上げましたけれども、委員会の中間報告をとらえて反映させているという感じがしております。いかがですか、委員の皆様方。反省、改善、またアンケートの集計結果そういったところ。それからまた、個々の従事者の皆さんが率直な意見を出していただいておりますので、そういう点も踏まえてですね、何かご意見があればぜひ、お話しいただければと思います。

委員長の特権という事で、私の方からひとこと言わせていただきたいと思っておりますけれども、投票従事者のアンケートの集計を見させていただきまして、特に自らの本務であるとの意識を持って取り組むことができたという点については、かなりの方々が、90パーセント以上の方が「十分できた」、「できた」と、そういう意識を持っていただけたということでございます。「できなかった」方もいたようですが、できれば、できなかったという方がどうしてできなかったのか、それがやはり少数であってもいるわけですから、なんらかの形で検証していただけたらいいかなと思います。それから、事前に行った投票事務の研修が十分理解できた。これもですね70パーセント弱ではありますけれども、いい成果がでたのかなと思います。参加していない方が24パーセントいたということで、参加していない以上意見はないわけですから、また参加できるような体制が必要かなと思うところがございます。それから事務主任者による指示の効率については、これもかなりできた、指揮系統がはっきりしていたのかなと思います。事務量の問題についてはほぼ適正というような回答。そしてマニュアルを読み理解できたか、これも90パーセント台の回

答であったということで、やはり事務マニュアルも相当改善された流れかと思っておりますので、そういう意味で分かりやすくなったのかなと思っております。そして、選挙事務危機管理マニュアルの伺いについてもですね、70パーセントを超える方々が有効であったというような回答であったのですけれども、やはり危機管理をあらかじめ、何が危機なのかということを知っていただくということが非常に重要になるのかなということなんでしょうね。それから、やはり最後のミスが発生事例集。どういうところでミスが発生しているのかということ事前に勉強しておくというのは、選挙に限らず非常に重要ですね。ミスというものを、何がミスなのかということを理解することが大事だということで。パーセンテージ的には非常に良かったのかなと。あと、反省、改善点については、さきほどのとおりという事で、それぞれで受け止めて事務局の方で今後の対応案をお示ししてございますので、これにより実効性のあるものにしていくためにはどうしたらいいのかということ、さらに突っ込んで示していくのかなと思っております。開票の方についても本務であるという意識が93.4パーセント、リハーサルのポイントもありましたし、やはりリハーサルで出てきたのは開票のリハーサルの肝は、票があってそれを使ってシャドーではなく、やるということが重要で、それからやはり、最後は開票録というものにまとめますので、数字のところをきちっと書けるようにして、また、読めるようにするというところかなと思いましたがけれども。それも含めて今後どのようにしていくのかなということだと思います。私ざっと見て、アンケートの結果、数字的なものからすれば今回の滋賀県知事選挙について、事が起きた後の選挙としては非常によく出来たのかなという感じはします。ただ来年の参議院選挙もありますし。私自身の感想としてはそういう感じでしたけれども委員の皆様方どうでしょうか。どんな細かいことでも良いので感じられたことをお話いただければと思います。やはり選挙はやらないと意味がないので、やった結果をみてどうなのかということですね、きちっと我々として、第三者委員会として事務局なり選管に答えていきたいなと思っておりますし、これはまだ道半ばの話ですから、これで次最終報告があ

りますけれども、やはりこういう開票をやったという検証を継続的に甲賀市における選挙事務に対する職員の皆様方の意識プラス実務の継承が大事かなというふうに思っております。あと、いろいろ第三者委員会の発端となった事件もありますけれども、最終的には幹部の皆さんの最終的な意識というのも大事だと思いますので、それを踏まえてですね、ですから今回の知事選挙を経験して一般の職員の方はともかく幹部職員の方々は選挙事務に対してどういう意識を持ったのか、やはり意識だけではなくて実務的なスキルをどう持ったのかを反省してもらえると良いと思います。

○山本委員 今回開票事務に130名ほど携わっていたということなんですけれども、ちょっと質問なんですけれども、これまで1票の選挙のときは何人くらいの方が携わっていたのですか。人数増やされたのですか。

○藤谷書記 50人程度増えております。

○山本委員 そうすると、前回4票やったときは160名ちょっとだったかと思うんですけれども、もし4票の選挙になるとしたら相当人数をまた増やすことを想定されてるんですか。

○山元書記 中間報告でもいただいておりますとおり、複数選挙の場合は当然人数を増やさなければいけない、今回1票ということでしたのであらかじめ防災を想定した要員につきましては、今回の選挙スタッフの事務従事者のなかには含めておりませんでしたので、比較的余裕があったなかで執行することができました。ただ、複数の票のある選挙の場合には、どのようにするかというのは、これはまた今後の大きな課題として持っておりますので、最終の、次回以降の会議のなかではお示しをしていきたいと考えております。

○山本委員 今回の選挙の前後に、大きな地震であったり大きな豪雨であったり、結構近いところでいろんな災害があったので、運が良かっただけというか、ほんとにちょっとずれていたら、投開票の当日に大きな災害があるというのは珍しいことではない時代なのかなという感じがしていて、もし本当にそうやって重なったときに防災もやりつつ投開票

もやりつつというのを、どうやっていくのかなと心配していたので。それから、映像を見せていただいて、100箱ってこれだけ大きなスペースを取るんだなということを実感しました。これを見るまでは、安易に投票箱の数を減らすのはどうなのかなと思っていたのですが、やはり減らすということも考えていかないといけないのだなと実感いたしました。見れて良かったです。私からの感想はこのくらいです。投開票事務に従事された皆様については本当にお疲れ様でした。

○**漣委員** ありがとうございます。見せていただきまして。いっぱいアンケートで意見出ているのですが、マニュアル改善の意見もあるような気がするのですが、不適正処理再発防止という観点なので、5月の中間報告のとき執行管理で主な点で提言ということで出させていただいたのは、一つは余った白票の管理をきちっとするという、それから、投票箱を全部開けて全部済んだんだねというその大きな2点であったような気がするのですが、一つ開票の関係で意見を受けて直すと書いていますよね。資料の3見てますと。資料の3の3ページのところ。この間の中間報告のときから白票のところについては枚数を確認した後に封印すると書いてあるのですが、今回資料の3を見てますと2行目で係が白票保存箱を閉じる前に開票管理者の確認を受け、その後封印すると書いていますが、これはいったい何をどう改善するとおっしゃっているのか、中間報告で書いてあることとこれの違いがちょっとわからないというのが一つ目です。ビデオでいくと2時間27分40秒くらいのところ。これが中間報告で出ていることと、さらに改善されるということになるのか分からなかったのでもっと教えていただきたいということがございます。もう一つは、開票箱の確認のところでございます。これは資料2の方で、開票事務アンケートのところの5ページでございます。下から9行目くらいでペケがついております、確定間際の投票箱の再確認は不要ではないかというご意見がありますが、私は今の映像を見てると必要だろうなと思って見ていたのですが、5ページの下から3行目、アンケートを受けての今後の対応は、正確さと効率性の両立の方法を検討すると書いてい

るのですが、この確定間際の再確認これはくれぐれも必要だというご判断になっていただけないかなと。2つ目は私の意見でございます。以上2つです。2つ目は意見なのでそれだけでございまして、その前のところだけ何をどう変えられるのかだけ教えていただけますでしょうか。

○**伴事務局長** 映像をまた見ていただきながら。

○**小高書記** こちら、開票会場で白票の封印を行う場面になるのですが、白票管理係によりまして白票数が書かれた白票管理票を庶務係に手渡して、庶務係で投票録との照合が終わった後に白票保存箱に白票を封印していく場面なのですが、この場面のときにすでに箱が閉じられた状態になっておりまして、その上に白票の枚数が書かれた紙を貼り付けております。ただ、この時点では開票管理者である平尾委員長に中身を見てもらってないままで封印をいただいているというところがございます、それに対して従事者より、箱の中身がきちっとあることを確認してもらった後に、箱に蓋をして紙を貼って封印してもらうべきではないかという意見が出まして、その内容がアンケートには書かれております。

○**漣委員** よくわかりました。ありがとうございます。

○**小島委員長** 今の白票の話ですけれども、そういった点でいうとより細かく事務局の方で実態を見て、また、従事者の方もより正確に、適正にやるようにという意識でそういう指摘があったんだろうなとそんな感じがしました。やはり委員長にちゃんと中身を見てもらって封印した方がいいですね。事務的なものが先行してしまったというイメージがありますね。今の白票の点もマニュアル的には、委員長に十分中身を拝見していただいた後、封印をするというような、文字としてなにかはっきりと。

○**伴事務局長** はい。マニュアルにしっかりと記載いたします。

○**漣委員** アンケートの資料1と資料2を見比べての話なのですが、開票事務の1ページの一番下のところで、事前のリハーサルに参加していない人は3人だけなんですよね。一

方、資料1の投票事務（研修）に参加していない人は85人なんですよね。4人に1人参加していませんよね。この違いは何なんでしょうということと、4人に1人参加してないというのは良いのでしょうか。後で何かフォローはされたのでしょうか。

○**伴事務局長** ただいまのご質問の関係なのですが、まず資料1の（2）投票事務の研修に参加していないものが85名という事で全体の4分の1近くということでございます。この85名の内訳でございますが、85名のうちの57名は保育園、幼稚園、あるいは保健センター等々のいわゆる出先機関で業務をしている職員でございました。先ほど資料1で説明の時に申し上げましたとおり、今回、投票事務従事者の研修会は5月28日という平日の午前10時からと午後1時半からと2回に分けていずれかに参加するようという事で設定をしたのでございますが、どうしても現場を抱えている職員の関係でどちらにも出ることが出来なかったという結果でございました。このフォローにつきましては、説明会の模様を映像で撮りまして庁内のグループウェアで見られるようにということで後のフォローはしてまいりましたので、参加はしてもらえなかったのですが、その映像については見ていただいて自分で研修をしたという風な形のフォローは事務局ではさせていただきます。ただ、先ほど委員長からもございましたように説明会の開催の時間ですとかその辺のやり方についてはもう少し今後の検討の余地はあるかなと認識をしているところでございます。それから開票事務のリハーサルの部分で参加していないが3人ということで、これは開票のリハーサルは当開票の前日である土曜日でございましたので週休日ということで休みの日でございましたので、ほぼ高い割合で参加は出来たのですが、どうしても週休日に職務のある者は出られなかったということでございました。ちなみにこの開票事務の事前に行ったリハーサルで当日の事務が十分理解出来たかという中で理解があまり出来なかった、出来なかったという者が合わせて6人という事ではございましたけれども、この6人が開票の時にいずれの係に所属していたかというのを少し分析したのですが、分類係、計算係、あるいは白票管理係というところで、先ほ

ど開票事務従事者からの意見にもありましたように、リハーサルの時に模擬票なり模擬の投票録、あるいは開票録というものを使わずに今回のリハーサルはいわゆるシャドーで行ってしまいましたので、もう少しイメージや実感が持てなかったというところで今回このような結果が出たのかという風に考えておりますので、この辺りについても次回選挙以降には改善の余地があると理解しているところでございます。

○小島委員長 今、お聞きしたお話、非常にいい点に気づかれたと思いますね。まあ私もリハーサルでやってまいりましたけれど、実際の票をですね、使って、実際の票といってもダミー票ではありますけれども、実際にちゃんと書いた票、大体5,000票くらいですか、最初から始めて最後開票録作成まで、そして開票管理者の終了宣言、まあそのような流れですね。ほぼ同じような流れで、その関係で従事者の方が不明な点があれば質問をしてもらおうというそのような流れでやりました。その他何かよろしいでしょうか。

○岩瀬委員 先ほどのビデオを見せていただいて事務処理を効率的にやっておられるなど思ったんですけど、直接担当された中でですね、これはもうちょっとやっぱり改善したほうが良いと思ったところはあったんですかね。それをお聞きしたいのですけれど。

○山元書記 アンケートのところでもいくつかは書いてあるのですが、やはりビデオを見ていただいて最初の投票箱を開錠する、鍵を開ける、あそこの所のスタッフがやはり少なかったのが最初から少しまづきかけたかなという印象は持っておりました。その後開錠して開被台に票を空けるという作業、これは3回ローテーションして行いましたけれど、ここももう少し効率的にやればですね、大きく時間が短縮できたのではないかと、そういったところが次回以降の反省点ではないかなと感じております。

○小島委員長 やはり来年の統一地方選挙に向けてとなりますと、特に参議院選挙は複数選挙となりますので、それも課題ですね。この事件が起きたときも複数選挙ということもありますし、先ほど山本委員からありましたけれど、投票箱100箱というのは半端なものではなくて、それが300とか400となると相当な混乱をしますし、投票箱自体でも

すね、種類の見分けを明確にどうしていくかというところだと思います。開被台も選挙ごとに分けないといけませんから、当然広いところが必要となってくる。今は、ひとつの選挙ですけれどこれを4種類だと4種類分同時並行にしてやっていくということになりますので、相当な人が必要ですし、効率化も必要になってくると思います。まあ私も4ついつべんの選挙、統一地方選挙をやってきましたけれど、人が多ければいいというわけではないのだけれど、それなりの人が必要になってくるということと、同時並行ということになるとそれぞれ全体を見渡すことも必要なんですけれどそれぞれの責任者が必要になってきますよね、そこも考えていく必要があるんだろうなと思います。やはり今回白票管理係をつくってやっていただいたということで、あれをやったことによって白票をなんらかのかたちで応用するという機会が奪われたわけですから、奪われたというよりもそれでよかったわけですが、まあ私も甲賀市の白票管理についてよそからも聞かれたところがあるんですけども、非常に良い方法だと思います。まずは疑問というかそういうことが出来ないように方策を講じるということが大事であって、まあ当然そういうことをやってないにしても、そもそもそれができないんだと、そうすれば投票事務から開票事務を通して事務全体のより一層の適正化のための改善が図れるんじゃないかと思っていますし、そういった意味では今回の甲賀市の取組みは全国のお手本になるようにさらに仕上げていってもらいたいなとそういう感じはしますけれどね。ほかよろしいですか。

○**伴事務局長** ありがとうございます。今後複数票の選挙になったときの対応、開票会場ということでございますけれど、先ほどの映像を見ていただいたときに100箱置きましたら現在のプララですと一杯一杯ということで、複数票の選挙になってくると現在の会場では困難かなと思っております。前回の再発防止委員会でもお話をさせていただいたかと思うんですが、複数票の選挙にあたっては規模の大きなとか広い場所が求められていると思いますので、現在市内の市立の体育館を中心にどういったところでできるのかというところを検討しているところですので、複数票に関してはそういった場所での

開票作業に向けて進めていきたいなと思っております。

○小島委員長 その他何か、今回の検証に限らず将来にわたってこの際何かお話いただけたらいいのかなと思うのですが。今回については先ほど漣委員からもありましたように投票箱の事が起因しているわけですから、そこは引き続き1選挙100箱という体制であるならば、広いところも必要でしょうし、アンケートの自由記述のところにもありましたけれど、投票所の数の問題、その辺の問題、効率化、合理化について、すでに事務局のほうでお考えになっているとお伺いしておりますけれど、その辺も並行してやっていくということも必要ですし、現状の100箱という事でもいいんですけど、より投票所の数が、まあ投票環境を減退させるイメージもありますけれど、そういうことも含めて、選挙事務といえども効率化も必要ですから、確かに投票環境の維持改善も必要ではあるんですが、それとの中間的な調整も必要だと思います。ぜひ効率化について、これは困難も伴うと思います。地域の皆様方からするとどうしてくれるんだとなりますから、そのためにはこうしようという代案を、投票環境を別の意味で維持改善していくことも含めて考えてもらうのかなと思っております。まあ後はあれですね、今度は職員が最終的な選挙事務への意識、コンプライアンスへの問題をどう継続的に、確かに選挙事務での違反は痛くもかゆくもだれも損した気がしないというような気もするんですけど、結局選挙制度への信頼を大きく損ねたということで、ひいていうと行政全体も損しているわけですから、そういう意味でいうと、一般職員もそうですけど、もう一度幹部職員の皆さん、まあ今回の事件で相当意識改革が進んだと思いますけれど、継続的にですね、やっぱり何年かすると当事者だれもいなくなって忘れてしまうという事がありますので、どう継続していくかという事が大事かなと、そのへん我々第三者委員会も議論をつめていかないといけないのかなと思いますので。まあ色々細かい点はあるにしてもきちんとした対応ができたのかなという感じがしております。次の委員会に向けて、次どういうテーマで掘り下げていくか、最終報告書の提言への項目をだしていくのかなと思います。それでは今

日のところはこれでしめるのですが、よろしいですか委員の皆様。

○**松岡書記** 小島委員長ありがとうございました。それでは、次第の5に移らせていただきますけれど、その他という項目を書かせていただいております。今の議論以外で何か申したいといことがあれば伺いいたしますけれどよろしいでしょうか。それでは次回の開催日等につきまして連絡させていただきたいと思えます。

○**前田書記** 本日委員の皆様がおそろいの時にご確認させていただいたのですが、次回の5回目の日程なんですけれども、9月末の方で予定を聞かせていただきまして、できれば9月27日の午後1時半から皆様方へのご参加をお願いできればと思えます。会場につきましてはこれからご準備をいたしますので、追って通知の方はさせていただきますのでよろしく伺いいたします。

○**伴事務局長** 次回の会議では最終答申の案、たたき台的なものを議論いただければということ準備を進めていかせていただければと思えます。

○**小島委員長** それでは事務局のほうで準備をよろしく伺いいたします。

○**松岡書記** それではこれを持ちまして第4回の再発防止委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。